1．課　題　名

《原則として課題名に商標名、商品名は使用しない。》

ゴシック体11p《 要領（２）参照 》

ゴシック体11p《 要領（１）参照 》

**実際の利用にあたっては赤字のコメント部分を削除して利用すること**

副題名　（第○報）

《 課題名と発表者の間は１行開ける。発表者と所属については要領（３）参照 》

○市川房枝１・Malala Yousafzai２・翁長雄志３・石橋湛山４・瀬長亀次郎５

（1.北大院農、2.農研機構北農研、3.道総研花野技セ、4.空知農改北空知、5.ＪＡよいち）

《 所属と本文との間は1行開ける 》

○○○・・・

《 ここからは導入部だが「緒言」「まえがき」「はじめに」などの見出しはつけない。研究の目的、動機、経過、問題点などについて書く。要領（４）参照 》

【材料および方法】

《試験・調査実施年、実施場所（市町村名を括弧書きで付す）を記載する。材料については、作物（植物）名（必要と思われる場合は学名も）、品種名（‘○○’と表記する）、由来、樹齢、栽培〔採取〕の場所・時期方法などを書く。種類の多い場合は表で示してもよい（「用いた材料は第１表に示すとおりである。」などと書いておく）。材料に相当するものがない場合は、項目名を【調査方法】、【測定方法】などとする。方法については、実験条件、調査・測定の項目・方法などを書く。実験・調査の内容が２つ以上に分かれている場合は、Ⅰ．○○：……、Ⅱ．◇◇……のように分けて書いてもよい。要領（５）参照 》

【結果】

《 結果と考察をまとめて【結果および考察】としてもよい。実験・調査の内容が２つ以上に分かれている場合はⅠ．○○：……、Ⅱ．◇◇……のように分けて書いてもよい。データが図表に示されている場合は、図表と対応させながら、「第○表に示すとおり、……」、「……の結果を第○図に示した。」、「……は……であった（第○表）。」のように書く。「結果」にはデータから確実に推定できることまでを書き、推測、推論、想像などを含めない。要領（６）参照 》

【考察】

《 データを解析し、推測・推論を加え、さらに、必要であれば筆者の過去の研究成果や他の研修者の報告中の結果・結論と比較検討して得られた判断について書く。実際面への適用・応用の可能性、さらに検討を要する点、この報告の内容に関連する今後の研究計画などについて書いてもよい。要領（７）参照 》

★全般的な注意事項

・余白（上25mm、下30mm、左25mm、右25mm）

・フォントサイズ：10.5ポイント

・課題名以外はMS明朝体

・1行文字数：45字、1ページ行数：45行

・赤字部分は消して使用すること。

・1頁目に本文、2頁目に図表を掲載すること。

・ファイル名は「課題番号＋執筆者姓＋作物名（またはキーワード）＋初稿」（例：「01佐藤ユリ初稿.docx」「02鈴木リンゴ初稿.doc」「03高橋アスパラ初稿.doc」等）として、校閲に提出する。

※行線は、表示タブ＞グリッド線の✔を外すと消えます。

2頁目に、余白にはみ出さないように留意して、図表を貼り付ける。要領（８）参照 》